

可能性

特別支援学級での外国語活動

(平成23年度からの必修化をむかえて)

「子どもたちの特性」と「外国語活動の特徴」を考えると、特別支援学級で外国語活動を行うことの意図と可能性が見えてきます。

子どもたちの特性

- 興味・関心が狭い → ゲームなど楽しい活動が多い
- 粗大運動や協応運動などが苦手 → ダンスなど体を動かす活動が多い
- 耳からの情報が入りにくい → 視覚に訴える教材が多い
- 気持ちを読み取るのが苦手 → コミュニケーションの活動が多い

外国語学習の特徴

なぜ

グローバル化が進む現代、障害のある人もそうでない人も、日常の生活で外国の文化や人と接し、様々なところで関わりあひながら生活しています。

通常学級の児童と同様に、外国語を通して(それぞれの児童のニーズに合った様々な学習の工夫をしながら)コミュニケーション能力の素地を養ってゆきましょう。

課題

実際には、『教室環境』や『マンパワー(サポート体制)』、『児童一人ひとりの特性』など、授業実践には考慮しなければならぬ実情がたくさんあります。

しかしながら、それ以上の期待と効果、可能性があるといえます。

児童の特性と外国語活動

特別支援学級においては、一人ひとりの児童の実態を的確に把握し、それぞれのニーズにあった外国語活動を構成することが重要です。

例えば、特有のこだわりがある児童には、教師の発音を反復し、記憶した言葉を時間が経過しても言うことができるという特性があります。

また、日本語よりも抑揚があり、表情や動きを大きく伴う英語は、コミュニケーション力の育成に新鮮な刺激を与えるものであり、リズムカルな歌、アート、ゲームなどを通して英語という音を楽しみ親しむことで、表現することの楽しさや大切さも体験できるのではないのでしょうか。

さらに、日本語では、学年が上がるにつれ、習得に差がありますが、外国語ではその差が小さく、劣等感を抱くことも少なく、通常学級に行ったときでも楽しめるという学習効果も期待されています。

歌やダンス、ゲームなど楽しいActivityがいっぱい

歌やダンスで、情緒や身体 の解放しよう!



ゲームを通して、感情の コントロールを学ぼう!



児童の特性に合わせた活動を 取り入れてみよう!

ペアワークや少人数活動など「会話」が中心

ペアワークやグループ活動で、コミュニケーション能力やソーシャル・スキルの向上をめざそう!



映像や音楽教材が豊富

視覚優位の子どもたちや音楽が得意な子どもたちにも有効!



子どもたちの特性を知ることからはじめる

特別支援学級に在籍する児童は、困り感（つまずき）や生活経験の不足などの様々な特性をもっています。

しかし、中には視覚情報を理解（処理）しやすかったり、興味のあることには集中力が持続したりするなど、正の特性もたくさんもちあわせています。



私の授業

私の学級では、普段の学習でもピクチャーカードやNHKの番組などを活用し、児童が理解しやすい手立てを講じています。

視覚優位な児童の場合、視覚に訴えるものがあるかないかで、集中力や学習内容の定着という点で大きな差が生まれます。

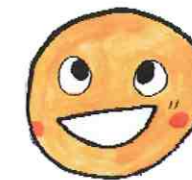
現在は、児童の興味をひきつけるICT教材開発をすすめるとともに、児童の特性に応じたアクティビティーやカリキュラムの研究を行っています。

成果と課題

成果1 歌やチャンツにあわせて行う活動が、子どもたちの実態にあっていた。

成果2 ICTを用いることで、興味や関心を高めることができ、意欲的に活動する姿が見られた。

今後の課題として、個々のよさを生かした活動の構成や個別の目標と外国語活動の関連性、より効果的なICTの活用法の習得などを考えています。



特別支援学級の児童が通常の学級で外国語活動の学習をすることについて特別支援学級の担任と通常学級担任の連携ということを前提に整理してみました。

ねらい

特別支援の児童に効果的なことは、すべての児童にも効果的であるということに基づいています。

通常の学級にいる児童にも能力差はあり、視覚的なものを使って説明したり、スモールステップで進めば、誰にとってもわかりやすいということになります。

活動のポイント

ゲームは、ルールを守る、負けを受け入れる、相談・協力などソーシャルスキルの要素を多く含んでいるのでアレンジ次第では、すべての児童が仲良く積極的に参加できるものとなります。

特別支援学級で前もって個別に学習内容について取り組む (特別支援学級の担任が指導)

1. 活動内容を具体的に！

ICTやカード、歌、チャンツなど、具体的な活動をおこなうことで、交流学級に行ったときに、見たことややったことのある教材やアクティビティであれば安心して取り組むことができる。

2. 事前に練習！

ルール理解の苦手な子どもには、前もって同じゲームを特別支援学級で行っておきましょう。

旭川市内の小学校では、『シアター』と呼ばれるSSTをよくやっています。特別支援学級で先生たちがあらかじめ、子どもたちの間で起こりそうなトラブルを考え、寸劇を見せて考えさせるものです。

例えば、ゲームをしていて、負けそうになったら、騒ぎ出して、トランプをひっくり返してしまう児童の役を先生がやって見せる。そして、子どもたちに考えさせるというものです。



通常の学級でのゲームに特別支援学級の児童が楽しく参加するために (通常学級の担任が指導)

1. 活動内容をパターン化！

例えば、『What do you want to be?』の学習の場合『I want to be a ~ when I grow up.』というように英語ノートおよび、そのDVDでは表現されています。そこでペアアクティビティやグループ活動のときに、

パターン1：むずかしそうだったら、『単語だけでもいいよ。』と指示。

パターン2：発語が苦手な児童には、絵カードを持たせておいてそれを指さして答えたり、『ジェスチャーや「らくらくペン^(注)」で答えてもいいよ。』と指示。

2. 活動はスモールステップで！

例えば、最初は、3種類のカードから、徐々にカードの種類を増やすなど、少しずつ、ルールを増やしていく。また、ルールがわかりやすいように、言葉だけではなくルールを書いた表、図、絵など視覚的に確かめられるものを用意する。その上で、順番が守れるように、順番表など視覚的に確かめられるものを用意する。

(注)「らくらくペン(成美堂)」については実践例5を参照してください。